

## 後藤文枝（ごとうふみえ）

1983年愛知県立総合看護専門学校保健科を卒業すると同時に東海市に就職し、3人の子育てをしながら保健師として活動。2000年から2年間東海市社会福祉協議会に出向、2009年に企画政策課に異動し、計画づくりを経験、2011年から東海市市民福祉部健康福祉課統括主幹となる。

### これまでの仕事内容

東海市職員として老人保健法、地域保健法、介護保険法の施行や母子保健法の移譲等市町村業務がどんどん増えていく中で、保健師としての業務を確立するとともに、乳幼児や高齢者等の家庭訪問や地域での健康教育を行い、市民の健康づくりを支援するために、保健師として地域で活動する。2009年に企画政策課に異動し、全庁的な健康づくりの取り組みを計画し、2011年に健康福祉課に戻り、その計画を現在も実践中である。また、東日本大震災で甚大な被害を受けた東海市の姉妹都市である釜石市支援にも協力している。

### 報告要旨

「東海市における“一人ひとりにあった健康づくり”の取り組み」

2008年9月、あいち健康の森健康科学総合センターの津下一代センター長の講演会で、「本市の男性の平均寿命が低い、1人当たりの医療費が高い」などの指摘があり、東海市長から担当部署だけでなく、市役所全体で「市民の健康づくり・生きがいづくり」を検討するようにと2010年に企画部企画政策課に「いきいき元気推進担当」を設置した。そこで42名の職員による「いきいき元気推進委員会」を立ち上げ、検討会を重ね「健康・生きがい連携推進プラン」を作成した。

プランでは、将来像（ビジョン）を「ひとりひとりがいきいきと笑顔でいられるまち」とし、5つの推進項目「健康を意識するきっかけづくり」、「こころと体がよるこぶ食生活」、「体をうごかすことを生活のリズムに」、「人と人とがつながる場づくり」、「心豊かに Let's Enjoy」を定め、「身近なところで自然に健康を維持できる環境」の整備を進めることとした。

現在の取り組みとして、健康診断の結果を活用して健康応援情報提供事業「あなたに合った運動・食生活応援メニュー」を開発し、その運動メニューに合せた運動施設

(しあわせ村トレーニング室、市民体育館や市営温水プールなど) や公園の整備を進め、食生活応援メニューに合せた「いきいき元気メニュー」の開発を市内の飲食店と協働で実施している。

星城大学とは、2006年から特定高齢者に対して運動器の機能向上を目的にゴムバンドを活用した「貯筋はつらつ教室」を、学生も参加した協働運営で、大変好評を得ている。また閉じこもり等の予防として実施している「いきいき元気教室」でも2007年から協力をいただいているが、今後は、介護予防だけでなく、市民の健康づくりの視点で一緒に取り組んでいきたいと考えている。

これからも関係機関が連携した健康づくりを推進し、都市宣言の一つである「生きがいがあり健康なまち東海市」を目指していきたい。